

2010年9月の南京シンポ報告、鈴木貞美「新しい学術の風—日中交流史シンポ報告」(10/15 東京/中日新聞(夕刊)掲載の記事(pdf)中、南京虐殺事件についての当時の新聞報道とは、次のものです。念のため。

1937年12月16日『東京朝日新聞』(夕刊)

見出し「南京一帯掃蕩の戦果、敵六万を捕虜・撃滅す、皇軍なほ清掃を続く」

本文「南京城を陥落させた皇軍各部隊は、それぞれ城の内外に集結し一部を以て潜伏出没する敗残兵の掃蕩及び、市内整理に当って居るが、この南京攻略戦でわが軍が捕虜とし、又は残滅した兵数は六万を下らぬと推察されている」

1937年12月19日『東京日日新聞』

見出し「敵の遺棄死体八、九万(南京攻略の戦果)」

本文「上海軍発表①南京攻略に当り敵の遺棄せる死体は八、九万を下らず、捕虜数千を算す②略③軍のとくに憂慮せし山中陵、その他保護建築物及び物件等は、敵守備兵或は敗残兵等のため破壊せられ惨々たる状態を呈しあり」

なお、それ以前、1937年12月8日『東京朝日新聞』

見出し「蒋介石・つひに都落ち、燃ゆる南京・掠奪横行、敗戦、断末魔の形相」

本文「南京にはわが航空隊が大空襲をなし、市内には諸所に火災を起し、人影殆ど絶え南京の大市街は廃墟の如く凄惨な光景を呈している。市中には少数の軍隊、憲兵が警戒に当たり、下関方面にも掠奪が行われ、支部軍常套手段の敗退の際における混乱が起こっている模様である」

追記; 武漢作戦完了後(1939年11月)、日本が公式発表した対中国戦争における中国軍側の死者数は180万人余。日本軍側は10万人余。陸軍省情報部のドキュメンタリー・フィルム『聖戦三年』(1939)字幕による。(2011/06/13)